

2018年12月6日

第40回大会概要報告

全国レディース委員長 澁川貴子

この度、ソニー生命カップ第40回全国レディーステニス大会が無事、成功裡に終了いたしました。各支部皆様のご協力で御礼申し上げます。今夏は記録的な猛暑の中、各都道府県大会が始まりました。各地で大災害も相次ぎ、被災された地域では、未だ復興の最中の地域もあります。一日も早く、日常が戻られることをお祈りいたします。

第40回の記念大会を迎えるにあたり、本大会を長年支え、想いを寄せ、大切に育てていただいた多くの方々の思いを知り、その歴史の重さに緊張を感じましたが、この記念大会に立ち会えたことを光栄に思い、準備をさせていただいた1年となりました。決して、勝者にのみスポットがあたってきたわけではなく、この大会がテニス界において様々な意義が込められていると感じるには、4年間の委員長経験では充分でなく、まだまだ奥があるように思っております。

歴史を刻む今年度、色々な地域の府県がベスト4に残り、最終日を迎えました。優勝は、16年ぶりの埼玉県。若手とベテランの融合と昨年のチームの支えもあっての優勝でした。準優勝は大阪府、3位愛知県、4位福岡県となりました。全て2-1の大接戦の最終日でした。また、各都道府県の代表として全国大会の舞台に出場した選手皆様、支えた監督、支部役員の皆様、それぞれの思いを噛みしめた時間があったことと推察します。辛かったこと、楽しかったこと、過ぎてみれば関わった全員の、私たちの40回記念大会であったと思います。そのように今までも、そしてこれからも、次の世代に向けて進んでいくこと、発展を望むことが全国大会の一つの役割であると思います。

決勝戦には、秋篠宮紀子妃殿下がご来臨下さいました。予定のお時間を過ぎても、センターコート対戦終了後のセンター横5番コートの埼玉県対大阪府No.3の対戦をお立ちの上で最後までご観戦下さいました。「テニスがしたくなりました」とのお言葉をいただけたことは、選手のみならず関係者全員の活動の励みになりました。

また、子供世代、家族への普及として長年続けている最終日のTENNIS PLAY&STAYの他にも、大会二日目には、次世代への呼びかけとしてこの大会の認知と魅力の発信を期待して、関東学生庭球同好会連盟所属の方による「カレッジマッチ」を開催いたしました。

さらには、惜しくも敗退したチームの皆様には親睦試合の他に、樗木プロ・岡本プロ・菅野プロ3名によるクリニックにもご参加いただき、カレッジマッチ参加者と合同のワンポイントクリニックにもご参加いただきました。

盛りだくさんとなった記念大会が、ゴールではなく、次の10年への出発ととらえ、支部やOGの皆様からのご意見もいただき、テニス愛好者にとって意義深く、支持される大会であり続けられるように努力していきたいと思っています。報告書には、結果などの他に各支部の実施内容なども載っております。お目通しいただきますようお願いいたします。